

第149回 青森県立図書館協議会 会議結果

1 日時・場所

平成22年11月18日(木) 13:30～15:00

青森市荒川字藤戸119-7 青森県立図書館 4階 研修室

2 出席者

《協議会委員》 敬称略 9名

乙山 和子 山内 倫 前田 敏子 澤田 百合子 工藤 征洋
六角 正人 田嶋 知宏 辻 敏雄 中村 雅胤

《図書館》

黒岩 恭介 (近代文学館長)

佐々木 昭夫 (図書副館長) 外8名

3 会議の概要

(1) 図書副館長あいさつ

(2) 議長選出

(3) 案件

ア 県立図書館及び近代文学館の主要事業の実施状況について

イ 県立図書館及び近代文学館の今後の管理運営方策の検討状況について

ウ ボランティアの活用について

委員の主な意見・要望等

[県立図書館・近代文学館の事業やサービス等について]

「調べ学習コンクール」を継続して実施してほしい。

「学校図書館アシスト事業」は、素晴らしい事業であり、学校にとって大変ありがたい。

[県立図書館・近代文学館の管理運営方策について]

昨年度に当協議会が出した意見書「青森県立図書館への指定管理者制度導入に関する意見」に書かれていることがもっともなことであり、県立図書館は県が直接管理運営していくべきである。

財政面などから指定管理者制度の導入が取り沙汰されるが、青森県の中心となる県立図書館なので県が直接運営するということが、子どもを育てていく、人間を育てていくという意味ではとても大事なことだと思う。

指定管理者の取組もよい刺激になる部分もあるので、そのようなところを学ぶことも必要である。

[ボランティアの活用について]

生涯学習の一環としてのボランティア活動への関心が高まっており、そういう意味では、図書館で利用者として本を利用することが学びであるように、ボランティアとして本を整理したり修理したりするということも学びである、ということを示した方がよい。

行財政改革からボランティアを活用するということは消極的である。財政が厳しいからボランティアを活用して職員の不足を補うという発想ではなく、県民の学びを支援するという形の位置付けでボランティアを明確に打ち出していくことで、ボランティアを積極的にやってみたいと思われる県民の方もたくさん出てくると思う。